

議員ふじさん歩

〈取材担当:井出 晴美〉

「鎌倉殿の13人」ゆかりの地



『頼朝が名づけた「からかさ木」村』



からかさ木

丘地区のからかさ町内には、「からかさ木」と呼ばれる大木があります。建久4年(1193年)、源頼朝が富士山の裾野で大規模な巻狩りを行っていた際、ある村落に入ると急に雨が降ってきたため、たまたま近くにあった大きな木の下に駆け込みました。通りかかった年寄りに、この村の名を尋ねると、この村にはまだ名前がついていないと答えたことから、頼朝は、この木がからかさの代わりになって守ってくれた木であることにちなみ、村の名前を「からかさ木」村と名づけ、この日からからかさ木村と呼ばれるようになったと伝わっています。以来、傘木ではこの木を町名由来の木として大切に、現在の木は先代の根本から生えた4代目とのこと。



記念碑

議会にひと言

今回は、静岡県水泳連盟飛込委員長で、東京2020オリンピックで飛込競技の解説をした内藤英樹さんにお聞きしました。

(インタビュアー:吉川隆之)



普段は静岡県富士水泳場を拠点に、飛込競技の指導をしながら、夢や目標に向かって一生懸命努力することの大切さを伝えています。一生懸命にやり切った人の経験と自信は、新たな活動や挑戦につながっていくと信じています。

近年、スポーツ庁では、学校の部活動の外部委託を推進していますが、富士市において実施する場合は、子供たちのスポーツに関わる機会や競技の選択肢が減少することのないよう、慎重に考えて進めていただきたいと思います。

若い人の力で躍動的な富士市となるためには、スポーツ振興は欠かせません。スポーツの発展に対するさらなる御理解、御協力をお願いしたいと思います。

議会 Vol.19 ヒストリー

田子の浦港とヘドロ公害 (昭和41年)

紙・パルプ工業で発展した岳南地域では戦後多くの企業が進出し、田子の浦港は駿河湾臨海工業地帯の拠点として、昭和41年に国際港として開港しました。

しかし、当時既にヘドロ堆積による悪臭や環境汚染が大きな問題となっていたため、県・市・企業関係者が一丸となってヘドロの処理対策に取り組み、富士市議会議長等から成る5人委員会による協議の結果、富士川左岸河川敷でのヘドロの陸上処理が内定しました。当初は反対していた地域住民も、市長から誠意ある説明を受け、昭和46年には賛成に至りました。

その後、想定以上のヘドロ堆積が判明し、第二次処理のしゅんせつ事業費の一部を富士市が負担することについて、昭和47年1月の市議会全員協議会にて市長から説明があり、了承されました。

長年にわたる協議と多くの方々の協力により、昭和56年に「クリーン宣言」を行い、ヘドロ公害は終結しました。

(担当:長谷川祐司)



編集後記

議員にタブレット端末が貸与され、これまで紙に印刷され配付されていた議案書などが、11月定例会からデータ配信される形となり、デジタル化がまた1歩進んだと感じています。インターネットも利用でき実に重宝するのですが、紙の議案書を読みながらペンで直接注目点などを書き留めていた自分には、タブレットにメモ機能があるとはいえ勝手が違ってまます、「デジタル化で議会力向上」と言うには、少し時間をいただきたいと思うところです。(井上 保)

次回定例会予告

2月定例会は、2月14日から3月22日まで開催され、令和5年度予算の審議及び市長施政方針に対する質問等が行われる予定です。

発行
富士市議会
編集
議会広報委員会
静岡県富士市永田町1丁目100番地
☎0545(55)2878(直通)
ウェブサイト
富士市議会 検索